

中国地域半導体関連産業振興協議会 第5回会合 意見交換要旨

<サプライチェーン強靱化>

- ・半導体産業の支援施策としては、先端・成長産業を対象とした助成制度を設けて、企業誘致や設備投資を支援している。（行政）
- ・当機関がある県では、昨年、半導体のコンソーシアムが立ち上がった。情報提供、勉強会、視察などを通じて、地元企業が半導体関連分野に参入するきっかけをつくるところから取り組んでいる。（支援機関）
- ・本市では、半導体に関するフォーラムを開催しており、参加者も増えている。会員限定ではなく、誰でも参加できる形式をとっており、企業のネットワークづくりなどをオープンな形で支援している（行政）
- ・当社はグローバルに事業展開しているため、世界最適調達を基準とする一方で、メンテナンスや簡単な部品の調達などでは、地元の行政機関などと連携し、ローカライズにも積極的に取り組んでいる。（企業）
- ・製造装置の需要増加に対応するため、設計、部品生産、組立など当社だけでは対応できない部分について、近隣企業と連携して調達できるように取り組んでいる。当社では、メインの装置は全て国内で組み立て、部品などもできるだけ近隣から調達したいと考えている（企業）

<人材育成・確保>

- ・半導体は、学生にとっては、名前は知っているけれどもブラックボックスであり、学生の保護者は、世界的な競争の中で厳しい状況にある産業と感じている。このような状況ではあるが、昨年度、大学院生（修士）を対象とする講座を実施した。本年度は、大学院生向けの講座を拡充するとともに、リーチする対象を広げて、理工系の学部生、経済学部で経済組織論を受講している学部生、一般教養課程の学部生を対象とする講座も開設する。（教育機関）
- ・当社では、昨年度の事業で、大学生のインターンシップを受け入れた。その時は、当社と学生のテーマがマッチしてたいへん盛り上がり、当社の担当者も学生から有意義な情報を得ることができたと満足している。本年度は、半導体の中でもややマイナーな分野で学生を受け入れる予定であるが、その事業をしっかりと知ってもらえるように取り組みたい。（企業）
- ・半導体企業がグローバル展開していること、日本経済を良くしていくためには海外企業との取引が必要であることから、大学などの教育機関には、半導体の人材とあわせて、グローバル人材の育成に取り組んでいただきたい。理系の学生だけでなく、文系の学生を対象とした講座を設けることは、非常に良いことだと思う。文系の学生の中には、合理的思考に優れた学生など、半導体企業に就職して活躍できる“筋の良い”人材がいる。（企業）
- ・産業界が要望する人材は、半導体人材、デジタル人材、サイバーセキュリティ人材などさまざまであるが、このような要望のエッセンスを取り出して、人材育成のカリキュラムをつくるこ

とが必要である。本事業により、学校にとっては良いカリキュラムをつくることができ、企業にとっては社員のリスクリングにつながるなど、(学生のメリットと合わせて)“三方良し”にしないとエコシステムにはならない。(教育機関)

<今後の協議会のあり方>

- ・協議会の参加企業が増えているが、それぞれビジネス経路が違っているため、カテゴライズされた分科会をつくってもらいたい。カテゴリーによって、それぞれの課題や問題があるので、汲み上げていただきたい。(企業)
- ・参加企業が増えて、さまざまなフィールドの人が増えたので、大きな協議会の会合だけでなく、ワークショップのような個々のつながりが必要である。「協議会のあり方についての検討」とは、協議会の今後の方向性を示したいということだと思う。このことについては、最終的に、この協議会が自走化するかどうかポイントになる。この検討に際しては、九州のSIIQ（シーク）などがどのような仕掛けをしているのかを知ることが必要である。(企業)

以 上